

Sun A. Kaken

株主の皆様へ

第102期のご報告

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

Core Technology

Flexible Packaging

Industrial Materials

Functional Materials

株式会社 サンエー化研

証券コード：4234

基幹3部門をベースに
堅実、かつ積極的な経営を推進します。

株主の皆様には、日頃より格別なご支援並びにご愛顧を賜わり、厚くお礼申し上げます。

本年4月1日をもちまして、代表取締役社長に就任いたしました藤岡 宣隆でございます。

このたびの東日本大震災により、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災されました皆様、並びにご家族の方々には心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

まず、当連結会計年度（平成22年4月1日～平成23年3月31日）の概要をご報告させていただきます。

円高の長期化、欧米経済の先行き懸念、デフレの影響などにより、日本経済は足踏み状態が続いています。その中で、当社グループでは以前より掲げておりました『開発力・突破力』のスローガンの下、全社一丸となり、コアテクノロジーを生かして環境にも配慮した新製品の開発、新規分野への参入を図るとともに、既存製品の拡販を推進して収益性の向上に取り組んでまいりました。しかし、第3四半期以降は円高の影響による海外製品の流入、また各種業界での生産調整など、当社を取り巻く経営環境は厳しい状態となりました。

その結果、当連結会計年度につきましては売上高33,572百万円（前期比0.7%増）、経常利益627百万円（前期比



27.8%減）と、業績予想を下回る結果となり、株主の皆様のご期待にお応えすることができませんでした。

このような厳しい経営環境に加え、東日本大震災の影響により、景気回復には長い期間が必要と予測されることも念頭におき、今年度は当社のポジションをより強固なものにし、ますます激化する競争に打ち勝つためにも、基幹3部門をベースに堅実、かつ積極的な経営に徹してまいります。

また、活発な経済活動を示すアジア圏での新規顧客を開拓するため、国内はもちろん、海外で開催される展示会にも出展し、当社の技術力・ブランド力をアピールするなど、PR戦略にも注力してまいります。

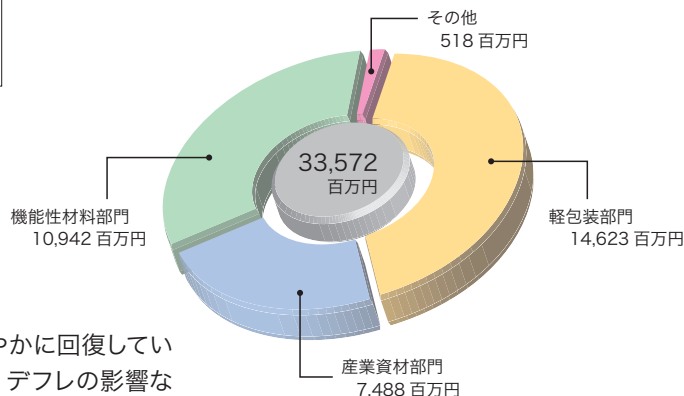
当社はテクノロジー立社『サンエー化研』として、数多くの高付加価値フィルムを市場に送り出してまいりました。今後も価値あるフィルムを開発し、市場に投入するなど、業績向上に努力いたしてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成23年6月

代表取締役社長 藤岡 宣隆

第102期のご報告



中国を中心とした新興国向け輸出やエコ関連特需により緩やかに回復していた日本経済ですが、欧米景気の先行き懸念と円高の長期化・デフレの影響などにより、足踏み状態となりました。このような状況下、当社グループでは販路開拓・新製品開発・新規分野参入など、収益性の向上に向け、全力で取り組んでまいりました。

軽包装部門

当初、回復傾向にあったエア緩衝材『エアロテクト』は後半に入り、ユーザーの在庫調整により減速したことに加え、食品関連を中心とする一般包材も、国内市場の低迷や天候不順などが影響し、伸び悩みました。

その中で、時代のニーズをとらえた電子レンジ対応食品包材『レンジDo!』は、新タイプを投入したことにより、販路を拡大しました。

その結果、売上高14,623百万円(前期比0.4%減)となりました。

産業資材部門

自動車関連部材などに採用されているセパレーターは堅調に推移したものの、電材用工程紙『アドテラ』などの電子部品関連部材は円高の影響を受け、苦戦を強いられました。また海外からの安価品の流入により、テープ用基材の動きも鈍く、全体に厳しい状況が続きました。

このような状況下、生産性向上などのコスト改善策により、拡販に努めましたが、予定していた売上高を確保することはできませんでした。

その結果、売上高7,488百万円(前期比5.1%減)となりました。

機能性材料部門

上期はLED薄型液晶テレビの伸長などにより、光学用表面保護フィルムを中心に大きく売上高が増加しました。

また、下期以降は液晶パネル業界の在庫調整により、売上高は減少に転じたものの、新規分野であるタッチパネル用部材などの拡販が功を奏し、前年に比べ増収に終わることができました。

その結果、売上高10,942百万円(前期比7.7%増)となりました。

今後の取り組みについて

北アフリカや中東における政情不安、欧米経済の先行き懸念などの世界情勢に加え、3月の東日本大震災とそれに伴う原発事故の影響が懸念される中、日本経済は今後も極めて不透明な状況が続くものと思われま

す。このような厳しい経営環境ですが、長年に亘り培ってきた技術力をベースに、既成概念にとらわれない創意工夫で、市場環境の変化と顧客ニーズに迅速かつ柔軟に対応できる体制を作り、より強固な企業体質を目指してまいります。

《軽包装部門》

電子レンジ対応食品包材『レンジ Do!』は既存タイプの伸長に努めるとともに、昨年10月に新タイプを投入して用途が広がったことから、新規ユーザーへの拡販を図ります。また、エア緩衝材につきましても新規用途・新規顧客の開拓を行ない、拡販に注力します。

その一方で、リチウムイオン電池などの二次電池用部材や太陽電池用部材の開発を積極的に推進してまいります。

《産業資材部門》

従来から行なっている工場の生産体制の見直しなどの生産性向上による更なるコストダウンを図り、価格競争に打ち勝つ体制を作って売上高の拡大に努めます。今後も市場拡大が見込まれる電材用工程紙『アドテラ』などの電子部品関連部材につきましては、拡販を推進いたします。

同時に、炭素繊維関連部材などの新製品開発にも積極的に取り組んでまいります。

《機能性材料部門》

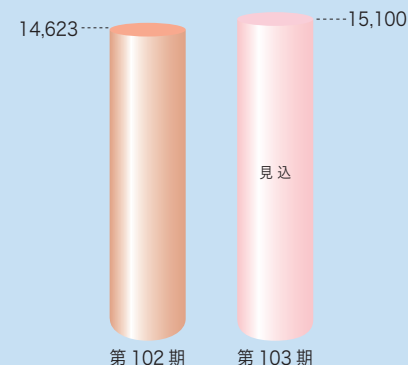
ますます需要が拡大する液晶パネル用途に対応した光学用表面保護フィルムの拡販を図るとともに、既存の表面保護フィルムについても用途及び販路の開拓により、売上高の拡大に努めます。

更に、成長が見込まれているタッチパネル用OCA※『サンキュアリー』につきましては、国内外を問わず拡販活動を推進いたします。

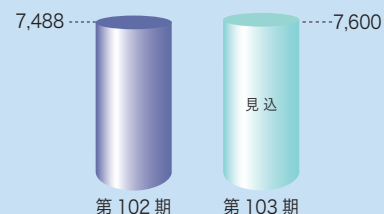
※ OCA=Optical Clear Adhesive

3部門売上げ比較

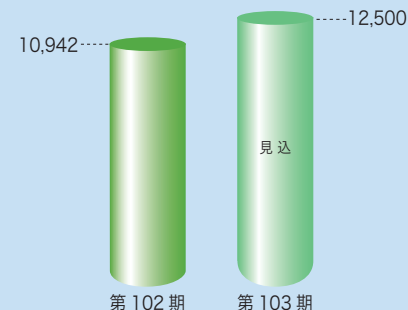
■軽包装部門 (百万円)



■産業資材部門 (百万円)



■機能性材料部門 (百万円)



基幹事業の改革とともに 新分野開拓への取り組み

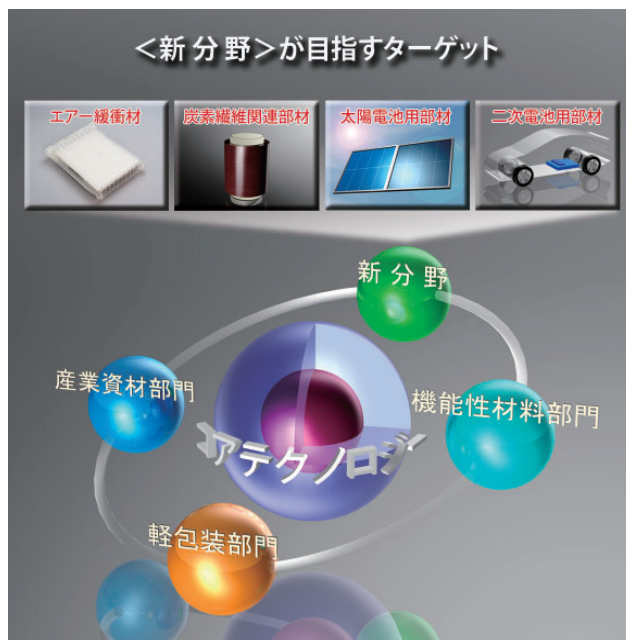
当社では、基幹3部門の他に新分野への取り組みを始め
ています。この分野は“環境志向型”をコンセプトとしており、
『次世代型エネルギー部門』『環境配慮型フィルム』とも表現し
ています。

新分野への取り組みは基幹事業の改革を含めた、以下の
内容で推進しています。

1. 成長分野への事業拡大
2. 開発戦略
3. 既存環境志向型フィルムの強調戦略

<成長分野への事業拡大>に関しましては、新規参入も
含めた事業展開を進め、既に機能性材料部門ではタッチパ
ネル用OCA『サンキュアリー』を市場に投入しており、続い
てタッチパネル用部材『SANCWIN^{サンクウィン}』も製品化が決定するな
ど、成長分野への事業拡大を図っています。同時に、表面
保護フィルム『サニテクト』もゴミ軽減を可能にした環境志向
型であり、生産工程のスピード化を図ったセパレーターレス[※]
の3タイプを発表するなど、実績をあげています。またリチウ
ムイオン電池などの二次電池用部材、太陽電池用部材、様々
な分野での使用が見込まれている炭素繊維関連部材など、
環境志向型フィルムでの事業拡大を推進しています。

<開発戦略>に関しましては、当社は従来からコアテク
ノロジーを駆使し、様々な複合化フィルムの開発を行ない、新
たなテクノロジーで業界をリードしてまいりました。これらの



技術力・ブランド力・製品という経営資源をベースに、新し
い環境志向型フィルムを開発することで、他社と差別化を図
り、テクノロジー立社としての地位を確立してまいります。

<既存環境志向型フィルムの強調戦略>に関しましては、
既存のエアー緩衝材などが該当します。省資源・省スペース
化など、環境志向型製品であるエアー緩衝材を使用すること
により、CO₂ 軽減など、環境問題に寄与することを再度強
調し、主力製品の拡販を進めています。

これらの戦略の下、社内では各部門が情報を共有し、同じ
目標に向かって様々なプロジェクトが進行しており、将来に
亘って持続可能な製品を提供することが、フィルムコンバー
ティング業界のパイオニアとしての責務と考え、社員一丸と
なって取り組んでおります。

※セパレーターレス：剥離フィルムのない表面保護フィルム

連結貸借対照表

(単位：千円)

科目	当期 (平成23年3月31日)	前期 (平成22年3月31日)
資産の部		
現金及び預金	4,562,302	4,904,386
受取手形及び売掛金	11,195,939	11,381,133
たな卸資産	4,057,613	3,970,254
その他	236,185	183,860
流動資産合計	20,052,040	20,439,635
建物及び構築物（純額）	3,211,785	3,403,075
機械装置及び運搬具（純額）	1,966,445	2,674,201
その他（純額）	2,408,135	2,416,273
有形固定資産合計	7,586,365	8,493,551
無形固定資産合計	51,299	76,170
投資有価証券	2,662,380	2,809,296
その他	883,980	911,430
投資その他の資産合計	3,546,361	3,720,727
固定資産合計	11,184,026	12,290,448
資産合計	31,236,067	32,730,084
負債の部		
支払手形及び買掛金	7,052,125	7,333,577
短期借入金	3,703,000	4,427,000
その他	2,547,887	2,566,319
流動負債合計	13,303,013	14,326,897
長期借入金	1,301,961	1,699,400
その他	1,450,626	1,569,156
固定負債合計	2,752,587	3,268,556
負債合計	16,055,600	17,595,454
純資産の部		
資本金	2,176,000	2,176,000
資本剰余金	2,135,839	2,135,839
利益剰余金	10,506,637	10,351,438
自己株式	△ 116,912	△ 116,870
株主資本合計	14,701,564	14,546,407
その他の包括利益累計額	356,692	470,786
新株予約権	3,139	—
少数株主持分	119,070	117,435
純資産合計	15,180,467	15,134,629
負債純資産合計	31,236,067	32,730,084

連結損益計算書

(単位：千円)

科目	当期 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)	前期 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)
売上高	33,572,992	33,328,939
売上原価	29,915,667	29,702,532
売上総利益	3,657,325	3,626,406
販売費及び一般管理費	3,144,412	2,868,928
営業利益	512,913	757,478
営業外収益	239,312	251,167
受取利息	1,196	3,815
受取配当金	64,433	62,500
その他	173,682	184,851
営業外費用	124,665	139,770
支払利息	104,819	131,856
その他	19,845	7,914
経常利益	627,560	868,874
特別利益	36,170	173,390
特別損失	108,889	49,001
税金等調整前当期純利益	554,841	993,263
税金費用	243,145	416,251
少数株主損益	2,889	3,751
当期純利益	308,805	573,260

連結キャッシュ・フロー計算書

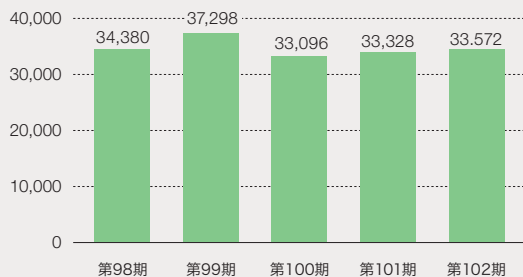
(単位：千円)

科目	当期 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)	前期 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,522,117	2,565,203
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 306,214	△ 333,927
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,558,587	△ 1,538,158
現金及び現金同等物の増減額	△ 342,684	693,117
現金及び現金同等物の期首残高	4,904,987	4,211,869
現金及び現金同等物の期末残高	4,562,302	4,904,987

財務ハイライト

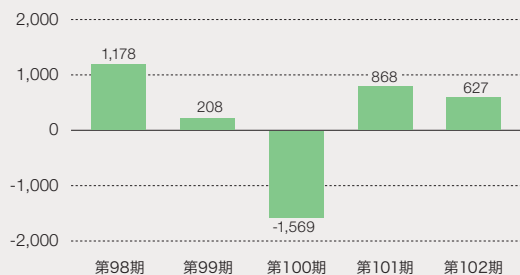
■売上高

(百万円)



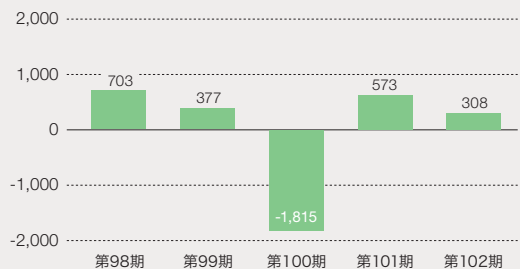
■経常利益

(百万円)



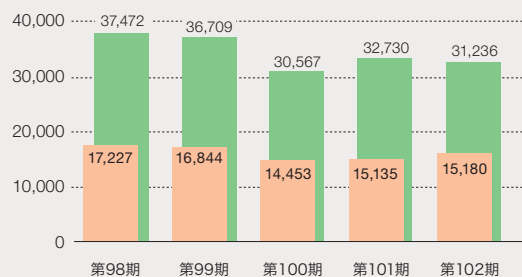
■当期純利益

(百万円)



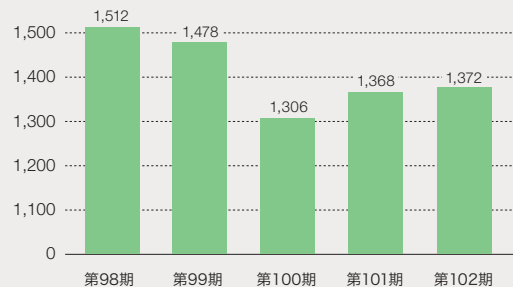
■総資産・純資産

■総資産 ■純資産 (百万円)



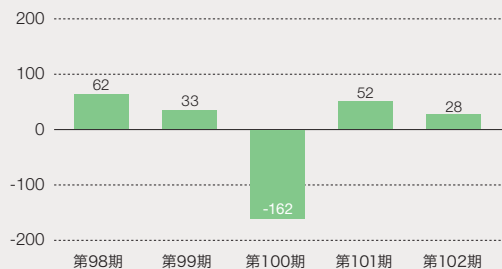
■1株当たり純資産額

(円)



■1株当たり当期純利益

(円)





製品開発 ストーリー



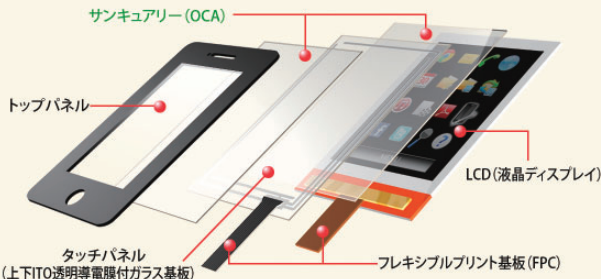
■タッチパネル用両面テープ『SANCUARY®』

今、大人気のアップル社製の iPhone。この iPhone に代表されるスマートフォン（多機能型携帯電話）では、タッチパネルが採用されています。これらスマートフォンのタッチパネルに、当社のタッチパネル用 OCA（芯なし両面テープ）『サンキュアリー』が使われています。

タッチパネルは何枚ものガラスやフィルムを重ねて構成されています。それらを貼り合わせるための粘着剤（両面テープ）が『サンキュアリー』です。

タッチパネルの製造工程では、当社の光学用表面保護フィルムが数多く採用されていますが、製品化されると役割を終えてしまいます。そこで、当社独自のコーティング技術と粘着技術を活用した恒久部材を開発し、日々進化するタッチパネル分野により深く参入することはできないか…。そのような思いから誕生したのが『サンキュアリー』です。

サンキュアリーが実装されている一例



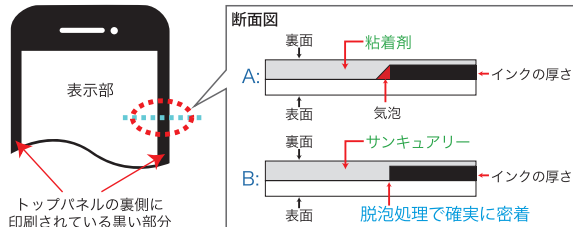
■『SAT』の粘着技術をベースに開発

しかし、表面保護を目的とした粘着剤とは異なり、タッチパネルを貼り合わせるための粘着剤にはより多くの機能が求められています。例えば、画面を見やすくさせる高い透明性やタッチパネルに使用されている ITO 膜を腐食させない耐腐食性、確実な操作を可能にする弾力性など…。しかも、表示画面に重ねて使用される粘着剤のため、製造時に異物が混入してはならないことから、クリーン度の高い環境での製造が必要です。そこで『SAT』で培われた粘着剤の実績をベースに、開発を進めました。

開発過程では様々な難題がありましたが、その1つにトップパネルと液晶画面の境目に気泡が生じ、液晶画面が見づらく、操作がしにくくなってしまいました。これはトップパネル裏面の周囲には印刷がされているため、そこに段差が生じていることが原因です。気泡は脱泡処理でコントロールし、段差に粘着剤を追従させています。また、様々な使用環境でも安定した粘着性能が得られるように設計を行いました。



■トップパネル裏面の印刷部分はインクの厚みの分、高くなり、段差があります。



このように、精密塗工技術と独自の粘着剤開発が融合して誕生したのが『サンキュアリー』です。皆様の身近な IT 機器の内部にも、当社の技術が生きています。



アジア圏拡販の拠点

台湾駐在員事務所 本格稼働



<台湾駐在員事務所概要>

所在地：110 台北市信義區信義路5段55D-18室

開設日：平成22年11月25日



機能性材料部門が扱う製品は、液晶パネルなどの生産工程では必要不可欠な表面保護フィルムとして国内はもちろん、アジア諸国からも高い評価をいただいております。最近では、アジア圏での顧客比率も増え、平成23年度はアジア圏での売上げ拡大を目指しております。

そのようなことから、より一層の顧客サービスはもちろん、市場調査・情報収集などを目的に、平成22年11月に台湾駐在員事務所を開設いたしました。

台湾は、経済発展が著しいアジア諸国の中でも、液晶パネルをはじめとした光学関連産業が活発な動きを見せております。アジアのシリコンバレーとも称されるように、ますますの発展が期待できるアジア圏の中核と位置づけ、開設にいたしました。

台湾駐在員事務所開設を足がかりとし、更なるグローバル展開を図ってまいります。



新製品・開発品を中心に出展

『第2回 高機能フィルム技術展』

FPD[※]や太陽電池などに使用される高機能フィルムに関する装置・部材・材料が一堂に展示される、世界最大規模の国際商談展『第2回 高機能フィルム技術展 フィルムテック ジャパン』。

今年は光学用表面保護フィルムを中心に、タッチパネル用OCA（芯なし両面テープ）『サンキュアリー』^{サンキュアリー}などの新製品・開発品を出展いたしました。

中でも、開発品『SANCWIN』^{サンクウィン}は当社の精密コーティング技術を駆使しており、需要が急増するタッチパネル用部材ということもあり、ご来場者の関心を集めていました。



平成23年4月13日～15日、東京ビッグサイトにて開催

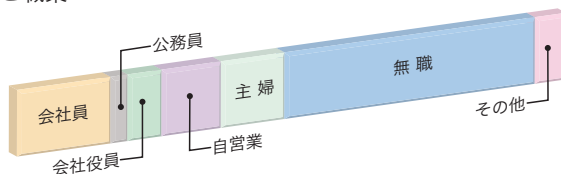
※FPD=フラットパネルディスプレイ

アンケート結果のご報告

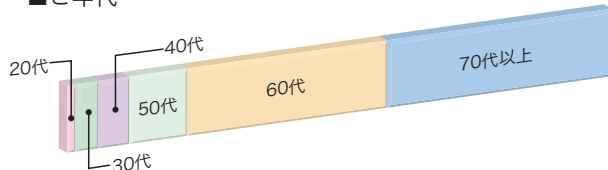
『第102期第2四半期報告書』でお願いいたしました、株主様アンケートにご協力を賜わり、ありがとうございました。

「厳しい環境の中、最善の努力に敬意、今後の活躍に期待」というご声援から、「公募価格を回復するよう努力すべき」というご指摘まで、数多くの貴重なご意見をいただきました。皆様から頂戴いたしましたご意見・ご要望を真摯に受け止め、皆様のご信頼にお応えできるよう、社員一同、努力してまいります。以下に、その一部をご報告いたします。

■ご職業

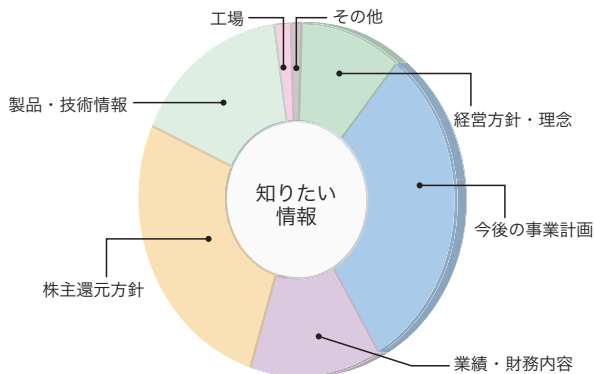
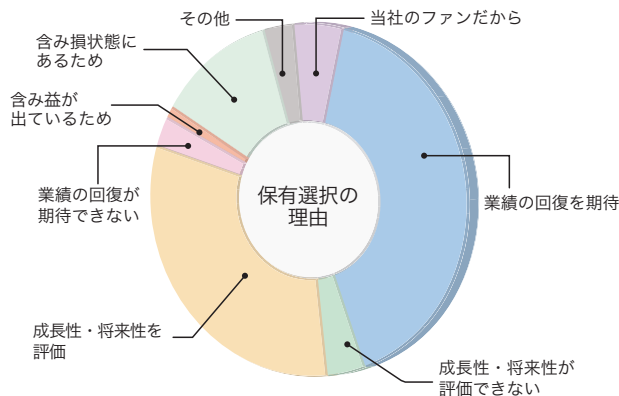
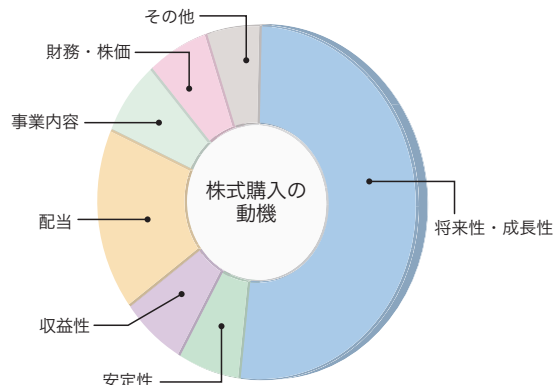


■ご年代



■調査概要

- ・ 調査対象：全株主2,644名様中、個人株主2,525名様
- ・ 調査方法：第2四半期報告書に同封し、郵送にて回収
- ・ 調査期間：平成22年12月2日～平成23年1月11日
- ・ 回収はがき：271枚（回収率 10.7%）



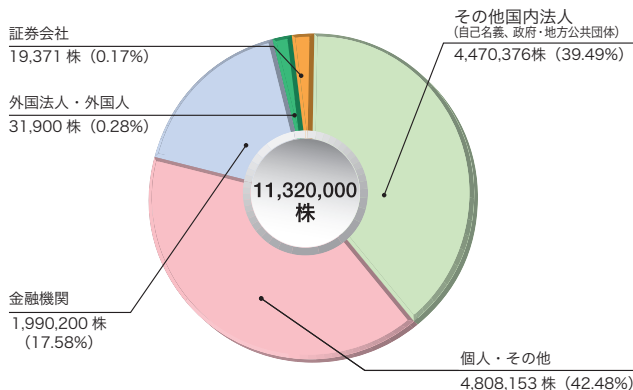
株式の状況 (平成 23 年 3 月 31 日現在)

発行可能株式総数……………45,000,000 株
 発行済株式の総数……………11,320,000 株
 株主数…………… 2,676 名
 大株主の状況

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	持株比率(%)
新生紙パルプ商事株式会社	1,812,200	16.51
昭和ボックス株式会社	1,244,200	11.33
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	471,300	4.29
サンエー化研社員持株会	342,700	3.12
株式会社三菱東京 UFJ 銀行	310,000	2.82
みずほ信託銀行株式会社	300,000	2.73
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	266,600	2.42
双日プラネット株式会社	227,000	2.06
株式会社みずほ銀行	200,000	1.82
山田 次夫	132,800	1.21

1. 当社は自己株式を 348,053 株保有しておりますが、上記の大株主から除いております。
2. 持株比率は自己株式 (348,053 株) を控除しております。
3. 『日本マスタートラスト信託銀行株式会社』の所有する株式は、すべて信託業務に係るものです。なお、それらの内訳は投資信託設定分 156,300 株、昭和ボックス株式会社の退職給付信託 300,000 株、及び株式会社巴川製紙所の退職給付信託 15,000 株となっております。
4. 『みずほ信託銀行株式会社』の所有する株式は、すべて昭和ボックス株式会社の退職給付信託に係るものです。
5. 『日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社』の所有する株式は、すべて投資信託設定分です。

所有者別株式分布状況



会社データ (平成 23 年 3 月 31 日現在)

会社概要

商号 株式会社サンエー化研
 本社所在地 東京都中央区日本橋本町 1-7-4
 事業所 関西支店、名古屋営業所、静岡営業所
 静岡工場、袋井工場、掛川工場、奈良工場
 研究所
 台湾駐在員事務所
 設立 昭和 17 年 9 月
 資本金 21 億 76 百万円
 従業員数 571 名
 主な事業内容 紙、プラスチック、金属箔等を主原料として軽包装材料、剥離紙、粘着テープ基材、表面保護フィルム等、包装材料関連製品の製造と販売

役員 (平成 23 年 6 月 28 日現在)

代表取締役社長 藤 岡 宣 隆
 専務取締役 武 智 利 文
 常務取締役 林 喜久雄
 取締役 藤 岡 貞 章
 取締役 天 野 松 雄
 取締役 篠 田 光 史
 取締役 山 本 明 広
 常勤監査役 大 嶋 幹 夫
 監査役 佐 藤 隆
 監査役 佐々木 英 一

(注) 監査役 佐藤 隆、及び佐々木 英一の両氏は、社外監査役です。

連結子会社

東邦樹脂工業株式会社
 本社・工場／栃木県下都賀郡野木町野木 148

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
配当金受領株主確定日	3月31日(期末配当) 9月30日(中間配当)
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特定口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL:0120-232-711(通話料無料)
上場証券取引所	株式会社大阪証券取引所 JASDAQスタンダード
公告の方法	電子公告により行なう 公告掲載URL http://www.sun-a-kaken.co.jp (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします)

<株式事務に関するお問い合わせ>

- (1) 住所変更、配当金の振込指定、単元未満株式の買取請求などのお申出先について証券会社に口座を開設されている株主様は、当該証券会社にお問い合わせください。証券会社に口座がないため特別口座に記録されている株主様は、当社の特別口座管理機関(兼株主名簿管理人)である三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部にお問い合わせください。
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL:0120-232-711(通話料無料)
- (2) 払渡期間経過後のお取り扱い
配当金領収証の裏面に受取方法を指定し、三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部までご郵送いただくか、同銀行全国各支店窓口にてお受け取りください。

当社の詳細なIR情報は、ホームページをご覧ください。

当社ホームページの<投資家情報>では、詳細なIR情報を掲載しております。また、業務内容や最新の企業情報、新製品情報などについてもご覧いただけます。

<http://www.sun-a-kaken.co.jp>

株式会社 サンエー化研

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町1-7-4 TEL.03-3241-5701 FAX.03-3241-5719

株主様向け
アンケート

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、
アクセスコード入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。
所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 4234

いいかぶ 検索 Yahoo!, MSN, exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。

空メールによりURL自動返信
kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

携帯電話からもアクセスできます
QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を差しさせていただきます。

※本アンケートは、株式会社エーエーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーエーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30)
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com

